

全校朝会 12.14

皆さん、おはようございます。

今日は、先週12月6日の日曜日のことをお話しします。

日本とちょうど季節が反対で、今が真夏の国、オーストラリアでのことです。6日の夜、夜中の2時28分、誰もがぐっすりと眠っているときのことで、南の空に、流れ星が見えました。



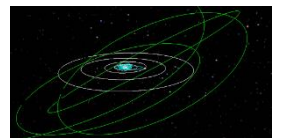
そのころ日本では、このような人たちがいました。どちらにも、はやぶさ2と書いてあります。これは、はやぶさツーと読みますが、何のことでしょう？



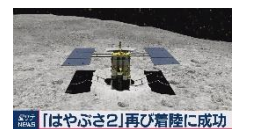
それは、このことです。これは人工衛星といいます。地球から宇宙へと飛び立った宇宙船のようなものです。でも、ここには人は乗っていません。この人工衛星に、行きたいところ、やりたいことをプログラムします。そうすると、自分で宇宙を進んでいくというのです。



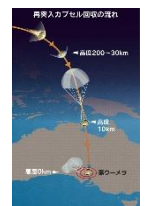
はやぶさ2は、地球を飛び立ち、りゅうぐう、という小さな星を目指しました。地球からは、なんとおよそ3億キロメートル。地球が一周で4万キロmなので、地球を750万周したことになります。あまりにも長すぎる距離なので、例えば新幹線で地球を周ったとします。新幹線で地球を一周すると100時間以上かかります。ですから、りゅうぐうまで、新幹線で行くと約3000年かかることになります。りゅうぐうまで行きだけで3000年、帰りも考えると、新幹線で6000年かかるほど、遠い距離にりゅうぐうは、あるということです。それをはやぶさ2は6年間で行ってきました。ものすごい早いとおもうでしょう。でも、地球から宇宙に出ると太陽の周りを自然に周れる、軌道、とうい流れに乗るので、自然と進んでいくことができるのです。ちなみに、私たちが住んでいる地球も太陽の周りをものすごいスピードで、はやぶさ2と同じくらいのスピードで動いているのです。



はやぶさ2は6年間という長い時間を、ひとりぼっちで真っ暗な宇宙の空間を飛んでいました。何のために飛んでいたか。それは、「りゅうぐう」に降りて、そこにある砂を拾い、持ち帰るためだったのです。砂を拾ったはやぶさ2は、地球に向けて再び出発。地球に近づくと砂の入ったカプセルだけを地球目掛けて落としました。



その落ちてきたものが夜空に輝いていた流れ星なのです。大きく見ると、このように火の玉のようです。それが地球に近づいてパラシュートを開きこのように落ちてきました。



落ちた場所は、はオーストラリア。ここも、偶然ではなく、予定通りの場所です。地上では、カプセルが落ちてくるのを待っていた人たちがいます。それを日本に持ち帰って、これから砂の様子について詳しく調べていくようです。何を調べるのか、それは、地球にいるすべての生命がどのように誕生したのか、そのヒントがりゅうぐうから持ち帰った砂を調べるとわかるかもしれない、ということなんです。



はやぶさ2は、地球の人類のために、宇宙に飛び立ちそしてカプセルだけを落として、自分そのまま次の目標とする星に向かいました。次に地球に戻ってくるのは2031年の予定だそうです。



私たちが地球でコロナ、コロナと言っているとき、はやぶさ2は、人類の誕生の秘密を探しに、遠い星まで旅を続けていたのです。

はやぶさ2のことを調べていく中で、校長先生は、こう思いました。コロナ、コロナと心配はし続けなければならないけれども、その中でも自分のこれからのこと、そして目標をしっかりと持たなければならない、そしてその目標に努力しなければならない、それはいつ、今、この時です。今をしっかり生きていかなければならないんだ、そう校長先生は思いました。みなさんも、今、何をがんばる時なのか、何を目指しているのか、しっかり考えながら生きてほしいと思います。今日は、はやぶさ2を通して、お話をしました。宇宙はとてつもなく広いです。いったいどこまで続いているのでしょうか？そして、人類はどうやって生まれたのでしょうか？これからの地球はどうなっていくのでしょうか？

これで、校長先生のお話を終わります。